

山口県からみた広島市と福岡市 (I)

Hiroshima and Fukuoka in view of Yamaguchi (I)

吉 村 弘

目次

1. はじめに
2. 調査の概要及びアンケート票
3. 回答者の属性
4. 山口県からみた広島市及び福岡市に対するイメージの強さ
5. 山口県と広島市及び福岡市との交流の強さ
6. 県内都市別にみた広島市及び福岡市に対するイメージの強さ
(以下次号)
7. 県内都市別にみた広島市及び福岡市との交流の強さ
8. 回答者の年齢別にみた広島市及び福岡市に対するイメージの強さ
9. 回答者の年齢別にみた山口県と広島市及び福岡市との交流の強さ
10. おわりに

1. はじめに

本稿の目的は、山口県の主として企業人が、隣県の中心都市である広島市及び福岡市に対してどのような意識をもっているかを調査し、それについて若干の考察を加え、それによって、今後の山口県勢発展の構想及び戦略を練るための基礎資料を提供することである。もとより、本稿は、山口県だけではなく、広島県や福岡県にも役立つところが多々あるであろうが、資料としての本稿をどの様に活用するかは、すぐれてそれぞれの主体の問題である。

現在日本には地域再編に関連して2つの大きな動きがある。第1は道州制で

あり、これは、市町村合併すなわち「平成の大合併」を受けて、地方自治制度の観点から地域再編を目指すものである。基礎自治体である市町村がある程度の規模をもつようになり、自治能力や政策形成能力を向上させれば、中間組織としての都道府県の役割は相対的に縮小するのが自然であるが、しかしながら、基礎自治体のすべてに対して直接に国が対応するのはかえって煩雑となるので、都道府県より大きな中間組織が構想されるのもまた自然である。道州制の検討は第28次地方制度調査会で検討されており、その区割り案も、昨年7月同調査会専門小委員会で7つの区域例が提示された。山口県は、その7例のうち5例で「中国」、2例で「中国・四国」となっている。この区割り案は、今年1月、総括論点整理として3例の区割り案にまとめられた。すなわち、区域例1（8道州）と区域例2（9道州）では、山口県は「中国・四国」に属し、区域例3（11道州）では、「中国」に属することとされている。

第2の動きは国土審議会における「新しい国のかたち」を模索する動きである。これは、国土計画の観点から、従来からの「国土の均衡ある発展」や、いわゆる4全総の「多極分散型国土の構築」、5全総の「多軸型国土構造」を見直し、地域の自立・交流・連携を通じて国際競争にたえ得る「自立広域圏連帯型国土」を形成しようとするものである。そこでは、国土計画における圏域形成の方向性を示すものとして、「二層の広域圏」が示されている。

ここに「二層の広域圏」とは「地域ブロック」と「生活圏域」であり、前者は、地域の自立という観点を積極的に打ち出した概念であり、自立した経済圏を形成して地域発展を図る観点から圏域内に資源・機能・施設を整備し得る圏域としての、人口規模で600～1,000万人程度以上で、欧州の中規模国に匹敵する経済規模があり、国際競争に対応できる潜在能力をもつ圏域が想定されている。その中心には政令市かそれに匹敵する都市を拠点都市として位置づけ、その発展の効果を周辺に波及させることによってブロック全体の振興を図ることが考えられている。

他方、後者の「生活圏域」は、身近な日常の生活関連サービスを享受することができ、社会生活を持続的に行い得る地域を形成するために、人口規模

30～50万人程度以上で、時間距離1時間程度の、まとまりのある地域を意味する。いわば、人口減少・少子高齢化の進む地域にあっても、ある程度の日常的都市機能を享受し得る地域である。

以上の2つの動きから、道州と「地域ブロック」、市町村と「生活圏域」とを重ね合わせて考えることができる。しかし、道州と「地域ブロック」とはかなり整合的に重なるが、市町村と「生活圏域」については、現状では市町村のなかにはなお小さすぎて「生活圏域」を形成し得ないところが多々存在する。したがって、平成の大合併はさらに次の広域合併の段階が用意される必要がある。

このような全国的な地域再編の動きの中で山口県の将来のかたちを構想するには、もとより多様な観点からの考察が必要であり、ひとり産業経済の観点に限られる理由も、またそれが特別に重視されるべき理由もない。また、客観的な資料による考察も必要であり、世界の潮流や全国的動向、近隣地域の動きの分析も欠かせない。

しかしながら、そこに住んでいる人たちが何を考えているかもまた極めて重要である。地域の将来は、結局は住んでいる人が造るものであり、その考えがやがて行動となって実現してくると考えるのが自然であるから、まずは住んでいる人々の意識を考察するのは大いに意義のあることといわねばならない。

この点からみると、従来、近隣との関係に焦点を当てて、地域構成員の意識を調査・考察することは少なかったのではないか。そこで、本稿は、本県の近隣として、過去も現在も、おそらく将来も最も関係の深い大都市、広島市及び福岡市の両市に焦点を当てて、本県の主として企業人がどの様に両市を認識しているかを調査し、考察を加え、将来の県勢振興への資料を提供しようとするものである。両市は、「地域ブロック」の拠点都市と位置づけられることは間違いないであろうし、道州の州都となる可能性も高い。しかも、本県では提供することがおそらくは困難な「100万都市の都市サービス」を、県民に提供する地域として、生活の点からも産業の点からも本県にとって重

要な地域である。

2. 調査の概要及びアンケート票

調査の概要は以下の通りである。

- (1) 調査名：「山口県からみた広島市と福岡市に関するアンケート調査」
- (2) 調査主体：山口大学経済学部吉村弘研究室
- (3) 調査対象：企業（山口県内商工会議所会員）及び山口県庁職員
- (4) 調査期間：（企業）平成16年11月10日～平成16年12月10日
（県職員）平成16年12月22日～平成16年12月28日

(5) 調査方法：企業については、山口県内14商工会議所にアンケート票を送付し、商工会議所ごとに会員に依頼・配布・回収し、調査主体宛に返送する。その際、各商工会議所に30部アンケート票を送付し、20部以上の回収を目指す。県職員については、山口県庁にアンケート票を送付し、担当係より関係する課の係員に回答を依頼・配布・回収し、調査主体宛に返送する。その際、60部のアンケート票を送付し、50部の回収を目指す。(*)

(6) 配布・回収状況

	配布数	回収目標数	回収数	回収数／目標数
企 業	420	280	278	99.3%
県職員	60	50	50	100.0%

(7) アンケート票：アンケート票を次に示す。

(*) 調査に際して、回答者各位はいうまでもなく、回答者との間に立ってお世話頂いた山口県商工会議所連合会富田俣彦専務理事はじめ各商工会議所の方々に、また山口県総務部の担当者に、大変お世話になりました。なお、本調査に対して当時のゼミ生・樋口旭生君の助力を得ました。記して謝意を表します。

(アンケート票) 「山口県からみた広島市と福岡市」に関するアンケート調査

山口大学経済学部吉村弘研究室 (TEL/FAX 083-933-5543)

この度、山口県下の企業及び行政の方々から都市間競争の中で広島市と福岡市をどのようにとらえておられるか、また、今後どのように対応されようとしておられるか、につきまして、お考えを伺わせて頂きたく、アンケート調査を用意させて頂きました。ご多忙のところ大変恐縮でございますが、どうぞよろしく、ご協力をお願い申し上げます。ご不明の点がございましたら、上記までご連絡お願い致します。

※【Q1】～【Q5】の質問に対して、該当する番号に○をつけて下さい。

【Q1】性別…1. 男 2. 女

【Q2】年齢…1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上

【Q3】業種…1. 鉱業 2. 建設業 3. 製造業 4. 電気・ガス・水道
5. 運輸・通信業 6. 卸売・小売業 7. 金融・保険業 8. 不動産業
9. サービス業 10. 公務 11. 飲食業 12. その他 ()

【Q4】貴社の従業員数は約何人ですか。次から選んで下さい。(公務の方はこの問を無視してください)

1. 10人未満 2. 10～19人 3. 20～49人 4. 50～99人
5. 100～499人 6. 500人以上

【Q5】貴社の所在地はどこですか。所属の商工会議所でお答え下さい。(公務の方はこの問を無視してください)

1. 下関 2. 宇部 3. 山口 4. 防府 5. 徳山 6. 下松 7. 萩
8. 岩国 9. 山陽 10. 長門 11. 光 12. 小野田 13. 柳井 14. 新南陽

【Q6】次の表にある項目について、あなたは広島市と福岡市のどちらにより強いイメージを持ちますか。

現在、数年前、将来について、広島市と福岡市のうち、より強いイメージの方に○を付けて下さい。

項目	現在、強いイメージを持つ都市		数年前(5～10年前)、イメージが強かった都市		将来(5～10年後)、イメージが強くなると予想する都市	
	広島市	福岡市	広島市	福岡市	広島市	福岡市
①経済力の強さ						
②成長力の強さ						
③将来性						
④中心性(求心力)						
⑤国際性						
⑥アジアとの結び付き						
⑦都市への行き易さ						
⑧都市計画の充実						
⑨都市の便利さ						
⑩都市の美しさ						
⑪都市的な楽しさ						
⑫治安の良さ						
⑬若者の活気						
⑭ファッション性						
⑮文化・芸術性						
⑯親近感						
⑰総合的なイメージ						

※【Q7】～【Q12】【Q14】の質問に対しては、(大いに増加…“大増” 少し増加…“少増” 変わらない…“不変” 少し減少…“少減” 大幅に減少…“大減”)から選んで、それぞれ該当するものに○をつけて下さい。

【Q7】数年前と比べ、貴方は広島市、福岡市への出張の回数は、どう変わりましたか。

広島市	大増・少増・不変・少減・大減	福岡市	大増・少増・不変・少減・大減
-----	----------------	-----	----------------

【Q8】今後、両都市への出張の回数はどうなるとお考えですか。

広島市	大増・少増・不変・少減・大減	福岡市	大増・少増・不変・少減・大減
-----	----------------	-----	----------------

【Q9】数年前と比べ、広島市及び福岡市に係る仕事が、仕事全体に占める割合はどう変化しましたか。

広島市	大増・少増・不変・少減・大減	福岡市	大増・少増・不変・少減・大減
-----	----------------	-----	----------------

【Q10】今後、その割合はどう変化するとお考えですか。

広島市	大増・少増・不変・少減・大減	福岡市	大増・少増・不変・少減・大減
-----	----------------	-----	----------------

【Q11】数年前と比べ、仕事上で広島市及び福岡市への電話・FAX・郵便・eメールの使用度(送信着信とも含む)はどう変化しましたか。

広島市	大増・少増・不変・少減・大減	福岡市	大増・少増・不変・少減・大減
-----	----------------	-----	----------------

【Q12】今後、それはどう変化していくとお考えですか。

広島市	大増・少増・不変・少減・大減	福岡市	大増・少増・不変・少減・大減
-----	----------------	-----	----------------

【Q13】(新)広島、山口宇部、福岡の3つの空港について、貴社の使用状況を次から選んでそれぞれ答えて下さい。

1. 非常によく使う 2. よく使う 3. 時々使う 4. あまり使わない 5. ほとんど使わない
 (新)広島 () 山口宇部 () 福岡 ()

【Q14】今後、それぞれの空港の使用状況はどうなるとお考えですか。

(新)広島	大増・少増・不変・少減・大減	山口宇部	大増・少増・不変・少減・大減
福岡	大増・少増・不変・少減・大減		

【Q15】今後、あなたは広島市・福岡市のどちらの経済圏と結び付きを強くしたほうが良いとお考えですか。次から選んで下さい

1. 広島市 2. 福岡市 3. どちらとも等距離で

【Q16】あなたがよく見ている民放テレビを3つ選び、番号に○をつけて下さい。

1. 中国放送(RCC) 2. 広島テレビ放送(HTV) 3. テレビ新広島(TSS) 4. 広島ホームテレビ(HOME)
 5. テレビ山口(TYS) 6. 山口放送(KRY) 7. 山口朝日放送(YAB) 8. RKB毎日放送(RKB)
 9. 福岡放送(FBS) 10. テレビ西日本(TNC) 11. 九州朝日放送(KBC) 12. TXN九州(TVQ)
 13. 大分放送(OBS) 14. テレビ大分(OTS) 15. 大分朝日放送(OAB) 16. 伊予テレビ(ITV)
 17. 南海放送(RNB) 18. 愛媛放送(EBC) 19. 愛媛朝日テレビ(EAT) 20. その他 ()

【Q17】道州制への移行が現実味を帯びて議論され始めています。道州制について、あなたはどの程度関心がありますか。番号に○を付けて下さい。

1. 大いに関心がある 2. ある程度関心がある 3. 少し関心がある 4. あまり関心はない 5. 全く関心がない

【Q18】道州制への移行は、貴社と広島市・福岡市との結び付きにどのような影響を与えとお考えですか。

次から選んで、それぞれ番号で答えて下さい。

1. 大いに強くする 2. 少し強くする 3. 変わらない 4. 少し弱くする 5. 大きく弱くする
 広島市 () 福岡市 ()

【Q19】道州制への移行に関する期待や不安について、広島市と福岡市の両市に対する山口県の方向づけについて、あなたの考え方などございましたら、書いて下さい。

ご協力ありがとうございました。

3. 回答者の属性

以下では、調査結果を示し、それについて若干の考察を行う。はじめに回答者の属性を示す。

表1 回答者の属性

(企業:商工会議所会員)

Q1:性別	回答数(構成比)	Q2:年齢	回答数(構成比)	Q3:産業	回答数(構成比)
1. 男性	223 (80.2)	1. 20歳代	11 (4.0)	1. 鉱業	1 (0.4)
2. 女性	50 (18.0)	2. 30歳代	44 (15.8)	2. 建設業	33 (11.9)
無回答	5 (1.8)	3. 40歳代	68 (24.5)	3. 製造業	52 (18.7)
計	278 (100.0)	4. 50歳代	81 (29.1)	4. 電気・ガス・水道	8 (2.9)
		5. 60歳代	57 (20.5)	5. 運輸・通信業	17 (6.1)
		6. 70歳代以上	17 (6.1)	6. 卸売・小売業	61 (21.9)
		計	278 (100.0)	7. 金融・保険業	13 (4.7)
				8. 不動産業	6 (2.2)
				9. サービス業	40 (14.4)
				10. 公務	1 (0.4)
				11. 飲食業	12 (4.3)
				12. その他	28 (10.1)
				無回答	6 (2.2)
				計	278 (100.0)

(企業:商工会議所会員)

Q4:従業員数	回答数(構成比)	Q5:所在地	回答数(構成比)
1. 10人未満	105 (37.8)	1. 下関	19 (6.8)
2. 10~19人	57 (20.5)	2. 宇部	20 (7.2)
3. 20~49人	48 (17.3)	3. 山口	19 (6.8)
4. 50~99人	30 (10.8)	4. 防府	20 (7.2)
5. 100~499人	24 (8.6)	5. 徳山	29 (10.4)
6. 500人以上	11 (4.0)	6. 下松	18 (6.5)
無回答	3 (1.1)	7. 萩	20 (7.2)
計	278 (100.0)	8. 岩国	17 (6.1)
		9. 山陽	24 (8.6)
		10. 長門	13 (4.7)
		11. 光	19 (6.8)
		12. 小野田	23 (8.3)
		13. 柳井	13 (4.7)
		14. 新南陽	24 (8.6)
		計	278 (100.0)

(公務:山口県職員)

Q1:性別	回答数(構成比)	Q2:年齢	回答数(構成比)
1. 男性	30 (60.0)	1. 20歳代	7 (14.0)
2. 女性	20 (40.0)	2. 30歳代	19 (38.0)
計	50 (100.0)	3. 40歳代	11 (22.0)
		4. 50歳代	13 (26.0)
		計	50 (100.0)

回答者の属性は表1の通りである。企業について、男女比は女性が2割弱であり、相対的に少ないが、企業人としては不自然な数ではない。年齢別は適当に分散している。産業別では、鉱業など極端に少ない産業もあるが、もともと事業所が少ないので、やむを得ない点がある。サービス業、卸小売業、製造業、建設業など、従業者数で大きなウェートを占める産業が多数を占め

ているので、ほぼ妥当な構成であるといえよう。企業の従業員数は、10人未満に偏っているが、500人以上も11企業あり、全体として不自然な構成ではない。なお、産業について、主要4産業はクロス集計にも耐え得るサンプル数であり、また、企業規模についてもクロス集計に耐え得るサンプル数であるが、本稿では産業や企業規模によるクロス分析は行わない。

所在地別では、長門と柳井が13サンプルで、やや少ないが、他はほぼ回収目標を満たしている。以下でみるように、所在地別クロス分析は本稿の中心であるが、その際、長門と柳井については、データの解読に注意を要する。

県職員については、年齢別について30歳代がやや多いが、特に不自然さは認められない。なお、本稿では県職員はひとまとめとして、企業との比較に用いるだけで、性別・年齢別の分析は行わない。

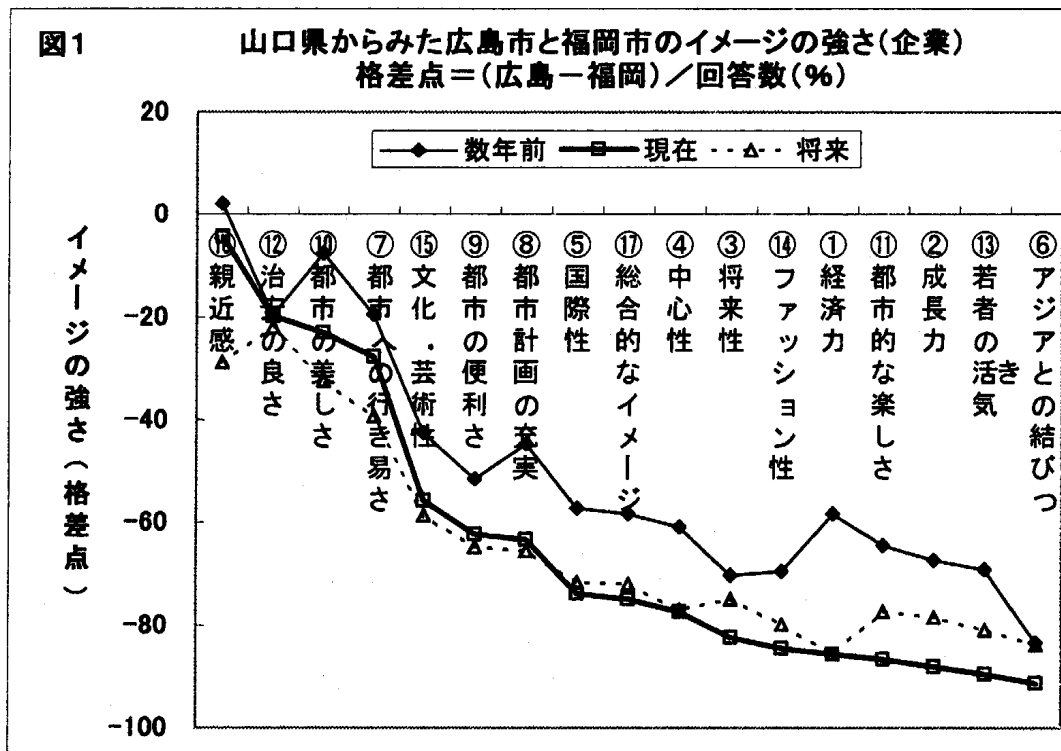
4. 山口県からみた広島市及び福岡市に対するイメージの強さ

はじめに、「アンケート票」のQ6によって、広島市及び福岡市について、直観的な一般的イメージをみる。抱くイメージの根拠は各人によって異なる

表2 Q6：広島市と福岡市のどちらにより強いイメージを持ちますか。(①経済力の強さ)

		現在、強いイメージを持つ都市			数年前(5~10年前)、イメージが強かった都市			将来(5~10年後)、イメージが強くなると予想する都市			回答数計	格差点(%) (広島-福岡)/回答数計		
		広島	福岡	無回答	広島	福岡	無回答	広島	福岡	無回答		現在	数年前	将来
企 業	1 下関市	0	19	0	0	19	0	0	19	0	19	-100.0	-100.0	-100.0
	2 宇部市	0	20	0	5	14	1	0	19	1	20	-100.0	-45.0	-95.0
	3 山口市	0	18	1	3	15	1	0	18	1	19	-94.7	-63.2	-94.7
	4 防府市	2	16	2	5	14	1	2	16	2	20	-70.0	-45.0	-70.0
	5 徳山市	0	29	0	5	24	0	0	29	0	29	-100.0	-65.5	-100.0
	6 下松市	3	14	1	2	15	1	1	16	1	18	-61.1	-72.2	-83.3
	7 萩市	2	16	2	4	14	2	1	13	6	20	-70.0	-50.0	-60.0
	8 岩国市	4	13	0	5	9	3	1	14	2	17	-52.9	-23.5	-76.5
	9 山陽町	0	24	0	3	21	0	1	23	0	24	-100.0	-75.0	-91.7
	10 長門市	0	13	0	1	12	0	0	13	0	13	-100.0	-84.6	-100.0
	11 光市	2	17	0	2	16	1	2	17	0	19	-78.9	-73.7	-78.9
	12 小野田市	2	21	0	11	12	0	3	20	0	23	-82.6	-4.3	-73.9
	13 柳井市	2	11	0	1	12	0	1	12	0	13	-69.2	-84.6	-84.6
	14 新南陽市	0	24	0	6	18	0	1	22	1	24	-100.0	-50.0	-87.5
	計(企業計)	17	255	6	53	215	10	13	251	14	278	-85.6	-58.3	-85.6
	県職員	1	49	0	6	44	0	3	47	0	50	-96.0	-76.0	-88.0

格差点(%) = (広島市に強いイメージをもつ回答数 - 福岡市に強いイメージをもつ回答数) / 回答数計



であろうし、ここでは根拠は分明でないが、しかし、各人が直観的に抱くイメージは、何事においても、判断する上で重要である。ここでは経済力など17項目について、「広島市と福岡市のうち、より強いイメージをもつ方」を、現在及び数年前（5～10年前）と将来（5～10年後）の予想として、選んでもらった。二者択一によるイメージ調査であるので、結果は極端に現れると予想されるが、その通りとなっている。

全体としてのイメージは、図1の通りであるが、まずその作り方から示す。たとえば①経済力について、調査結果を後の説明のために企業所在地別に全貌を示すと表2のようである。ここで、現在、数年前、将来のそれぞれについて、広島市及び福岡市とのイメージの格差を次のようにして求める。

格差点 (%) = (広島市に強いイメージをもつ回答数 - 福岡市に強いイメージをもつ回答数) / 回答数計

したがって、この格差点は、最高100点、最低-100点で、格差点が高いほど広島市のイメージが強く、逆に格差点が低いほど福岡市のイメージが強い。

さて、図1は、企業について、「アンケート票」Q6（広島市及び福岡市に

ついでにイメージの強さ) についての単純集計の格差点を示す。全体として、格差点がマイナス、すなわち広島市に対して圧倒的に福岡市のイメージが強力であるのが分かる。数年前の⑯親近感でわずかに広島市が上回るが、他はすべて福岡市が優勢である。とくに、⑥アジアとの結びつき、⑬若者の活気、②成長力、⑪都市的な楽しさ、①経済力、⑭ファッション性、などでは福岡市のイメージは圧倒的である。広島市のイメージは、⑯親近感、⑫治安の良さ、⑩都市の美しさ、⑦都市への行き易さなどで健闘している。総じて、活力、都市的雰囲気、国際性などで福岡市が強いイメージをもつ。

5. 山口県と広島市及び福岡市との交流の強さ

次に、アンケートQ7からQ18によって、山口県との交流の強さの点から、

表3 Q7：数年前と比べ、広島市への出張回数はどう変わりましたか

		数年間と比べた広島市への出張回数						回答数計	評価点
		大いに増加a	少し増加b	変わらないc	少し減少d	大いに減少e	無回答f		
企 業	1 下関市	1	4	10	3	1	0	19	2.6
	2 宇部市	0	2	7	6	5	0	20	-35.0
	3 山口市	5	1	7	1	1	4	19	21.1
	4 防府市	0	3	11	1	0	5	20	5.0
	5 徳山市	1	1	16	7	2	2	29	-13.8
	6 下松市	0	5	8	1	0	4	18	11.1
	7 萩市	0	0	9	2	3	6	20	-20.0
	8 岩国市	1	3	4	4	0	5	17	2.9
	9 山陽町	0	1	14	4	1	4	24	-10.4
	10 長門市	0	0	8	0	5	0	13	-38.5
	11 光市	0	2	12	1	1	3	19	-2.6
	12 小野田市	0	4	13	4	0	2	23	0.0
	13 柳井市	0	4	9	0	0	0	13	15.4
	14 新南陽市	2	3	17	2	0	0	24	10.4
計(企業計)		10	33	145	36	19	35	278	-3.8
県職員		1	7	34	2	3	3	50	1.0

$$\text{評価点(\%)} = (2 * \text{大いに増加} + 1 * \text{少し増加} + 0 * \text{不変} - 1 * \text{少し減少} - 2 * \text{大幅に減少}) / (2 * \text{回答者数})$$

広島市と福岡市を比較する。たとえば、広島市への出張回数に関する調査結果を、後の説明のために企業所在地別及び県職員について、全貌を示すと表3のようである。これより、広島市への出張回数についての評価点を次のようにして求める。

$$\text{評価点 (\%)} = (2 * \text{大いに増加} + 1 * \text{少し増加} + 0 * \text{不変} - 1 * \text{少し減少} - 2 * \text{大幅に減少}) / (2 * \text{回答者数})$$

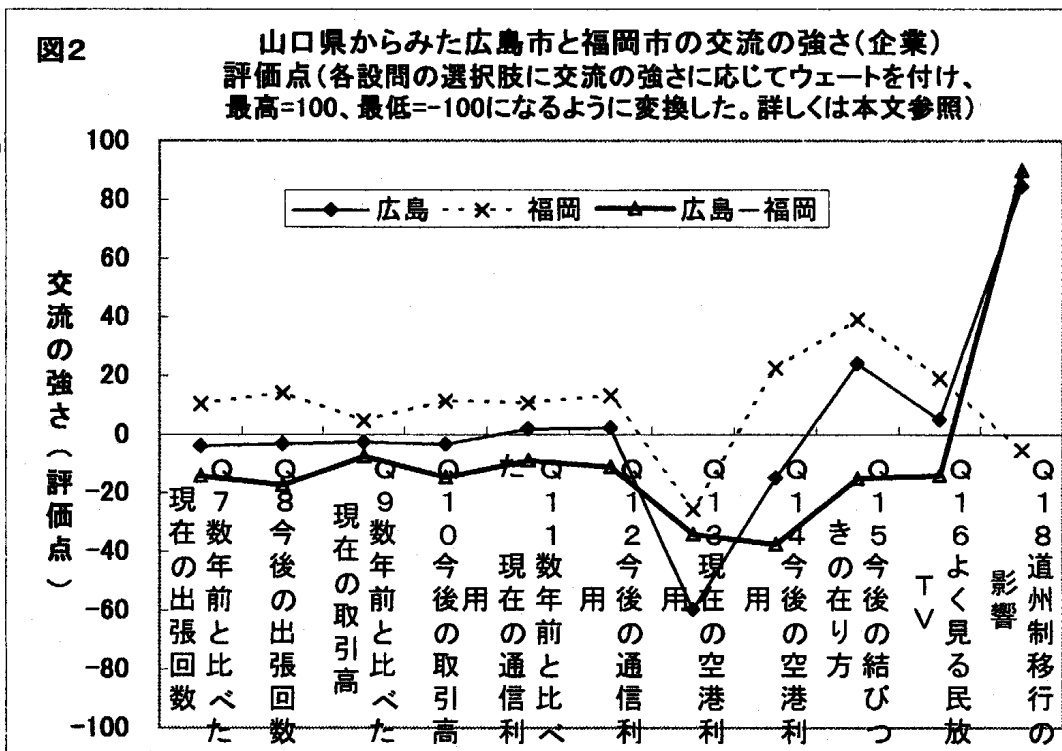
ただし、Q13の「時々使う」とQ17の「少し関心がある」については、上記の評価点算式において「不変」の項として扱い、そのウェイトは0ではなく、0.5とする。また、Q16については、評価点は次の通りである。

$$\text{Q16の評価点 (\%)} = (\text{広島市の民放} - \text{福岡市の民放}) / (3 * \text{回答者数})$$

ここで、回答者数の2倍 (Q16では3倍) を分母とするのは、評価点の最高=100、最低=-100とするためである。

このようにして「広島市」「福岡市」の評価点を求める。ただし、図中の「広島-福岡」は、両市の評価点の差である。すなわち、

$$\text{「広島-福岡」} = \text{広島市の評価点} - \text{福岡市の評価点}$$



さて、このようにして求めた評価点が企業についての単純集計として図2に示されている。全体としてみると、広島市の評価点はプラスマイナス相殺して0に近く、福岡市の評価点は少しプラスである。すなわち、出張回数、取引高、通信利用は、概ね広島市はゼロであり、福岡市は小さなプラスである。ただ、空港については、現在は広島市も福岡市ともかなり大きなマイナスであり、それだけ山口宇部空港が利用されている訳であるが、今後の利用については、福岡市はかなり増大が見込まれ、逆に広島市はなお減少が見込まれる。調査時点ではまだ建設中であった新北九州空港が間もなく開設されるが、これは下関市などの県西部地域を中心に大きな影響を与えるであろう。

「よく見る民放テレビ」はやはり福岡市が多い。しかし、これは、とくに県内の都市別に違いが大きいものと考えられるが、それについては後の節で扱う。

「今後の結びつき」は広島市も福岡市もともかなり強まる予想であるが、ここでも福岡市の方が強い。ただ唯一広島市が強いのは、「道州制移行の影響」であり、これだけは圧倒的に広島市が強い。山口県の企業者は、将来の道州制のなかで漠然としてではあれ、中国州の一員となることと、その州都としての広島市を想定しているものと考えるのが自然であろう。後に図33においてみるように、道州制の影響についての、この傾向は県職員においてはさらに増幅して現れる。

6. 県内都市別にみた広島市及び福岡市に対するイメージの強さ

(1) 経済力

広島市及び福岡市に対するイメージは上記4節の通りであるが、予想されるように、県内都市によって、その見方には大きな違いがある。本節では、広島市及び福岡市に対する県内都市間のイメージの違いをみる。

図3は、①経済力の強さからみた広島市と福岡市である。これは、上記の

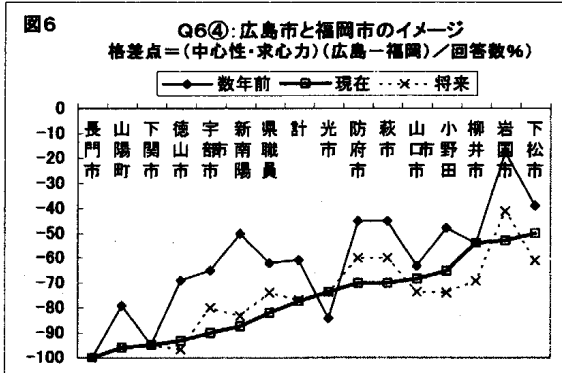
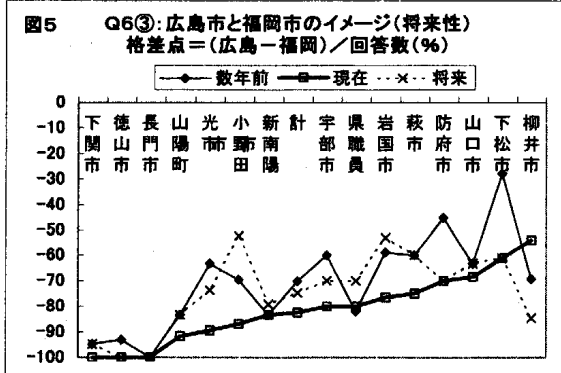
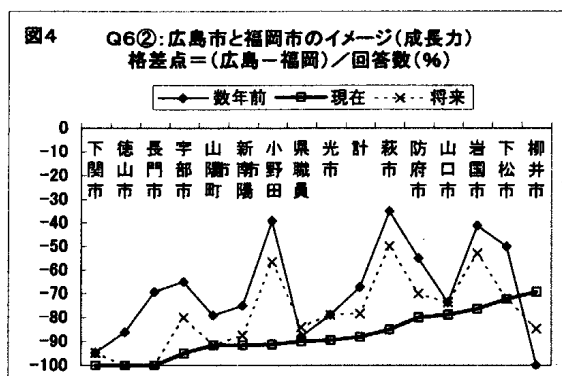
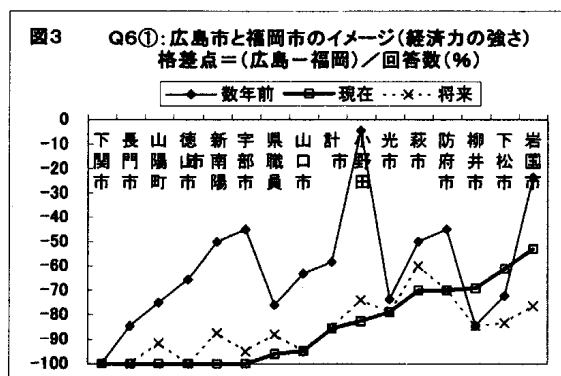


表2より作成されている。14都市すべてについて、また、現在・数年前・将来のすべての時期について、福岡市のイメージが広島市より強い。とりわけ、下関、長門、山陽、徳山、新南陽、宇部では圧倒的に福岡市が強い。岩国、下松、柳井、防府が相対的に広島市の経済力を評価しているが、それでも問題なく福岡市のイメージが強い。広島市に近い岩国、柳井、下松で、将来のイメージが弱いのが広島市にとって懸念材料であろう。県西部でない新南陽・徳山が県内都市の中では意外に福岡市寄りであるのが分かる。時期別にみると、数年前から現在にかけて福岡市のイメージが強まり、将来もほぼそのままその状態が続くとみている。

(2) 成長力・将来性

成長力と将来性については、図4・図5のように、全般的には福岡市の評価が高いが、とくに下関と徳山、長門などが福岡市を高く評価し、柳井、下松が相対的に広島市寄りである。徳山が福岡市寄り、山口が広島市寄りであるのが印象的である。

(3) 中心性・求心性

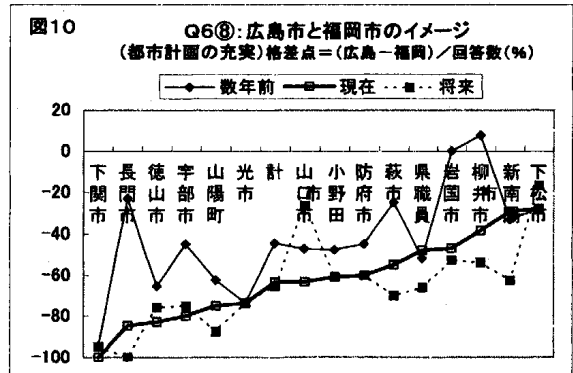
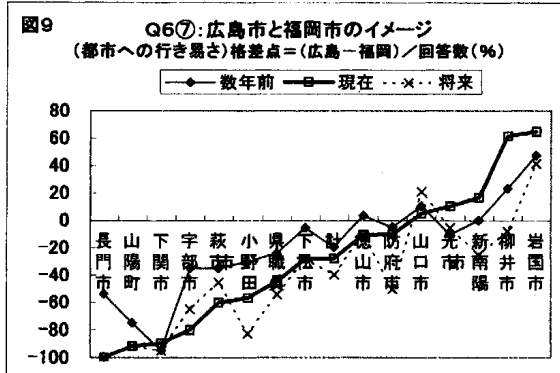
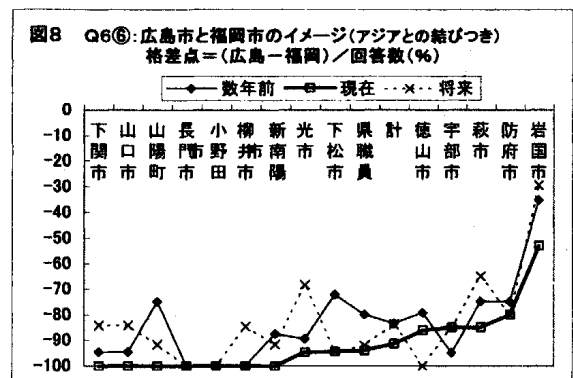
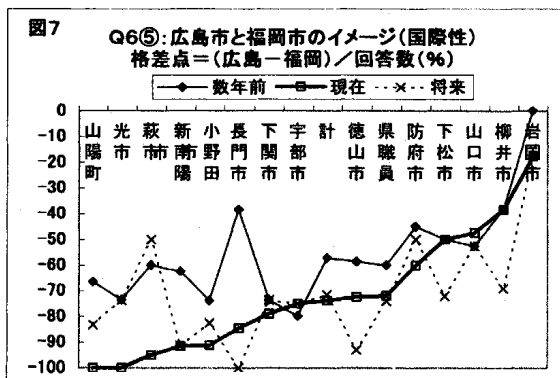
中心性・求心性は、図6のように、長門、山陽、下関が福岡市寄り、下松岩国、柳井が広島市寄りである。下松が意外に広島市寄りである。

(4) 国際性・アジアとの結びつき

図7のように、国際性については、福岡市のイメージが強いものの、全体の中では山口県東部の岩国、柳井などでは広島市の評価も福岡市に迫るほどである。下関が意外にも福岡市寄りである程度が薄い。アジアとの結びつきについては、図8のように、予想通り、福岡市のイメージが圧倒的である。岩国を除いて、広島市には見る影もないというべきであろう。

(5) 都市への行き易さ

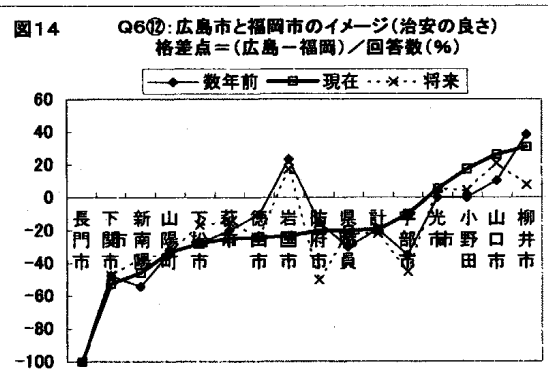
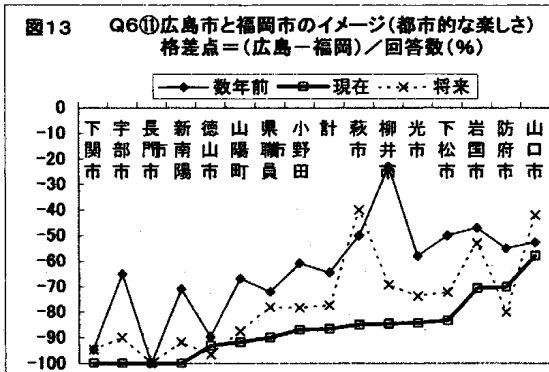
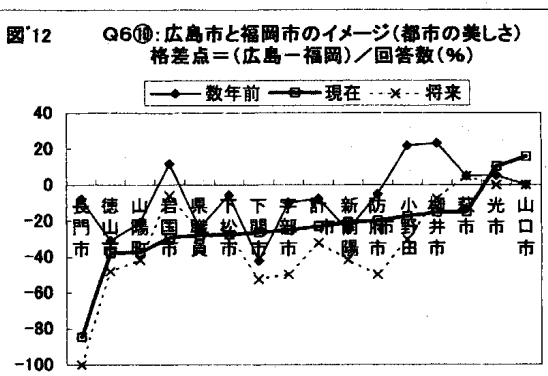
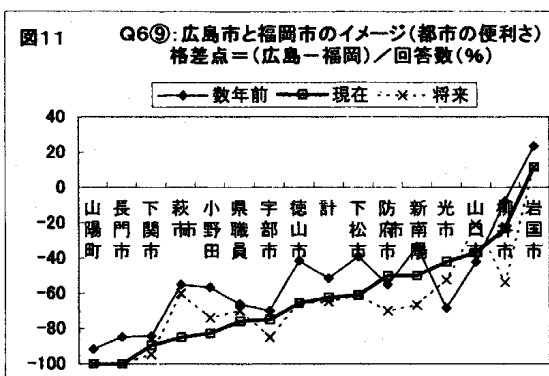
都市への行き易さは、図9のように、数年前・現在・将来の差が少なく、周防部と長門部で、広島市と福岡市とにほぼ2分されている。計がちょうど



中間にあるのも象徴的である。下関が広島市と福岡市とについて格差が少ないが、新幹線ひかりで（新下関から）広島駅まで56分、博多まで27分、高速道路IC間で広島まで199km・2時間29分、福岡まで77km・58分であるから、やや意外な感を否めない。

(6) 都市計画の充実・都市の便利さ

都市計画については、図10のように、福岡市のイメージが強いのは共通である。しかし、県東部、中央部、西部という順に、距離が広島市から遠ざかって福岡市に近づくとつれて、都市計画の充実についてのイメージも福岡市が強くなる。本来、都市計画などは、自分の居住地とは関係なく、その充実度についてイメージをもつことができるはずであるが、距離の遠近とこのように関連が深いのは、如何に考えるべきであろうか。都市の便利さは、図11のように、数年前、現在、将来という時期的な違いが少なく、都市間の違いも極めて平均的である。

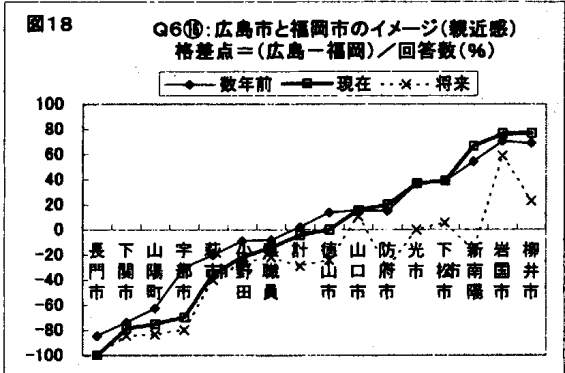
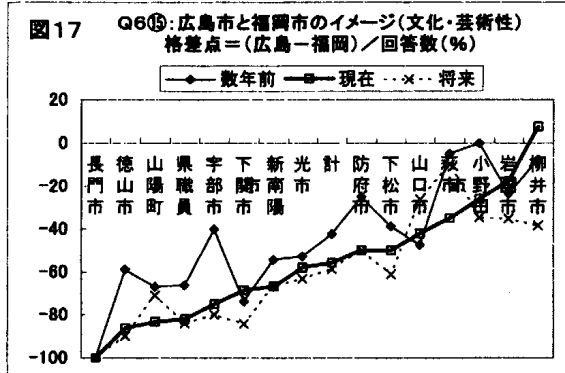
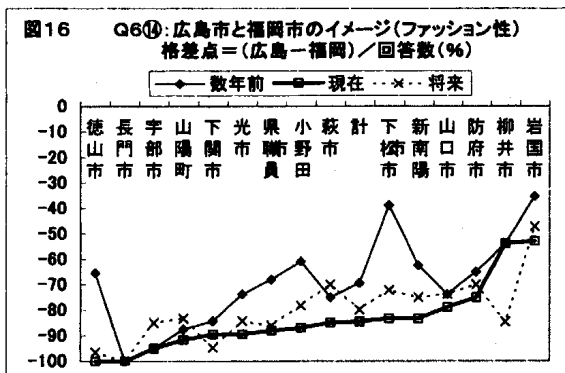
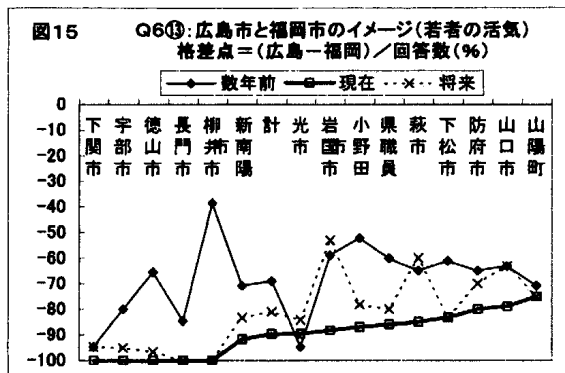


(7) 都市の美しさ・都市的な楽しさ・治安の良さ

図12のように、都市の美しさは比較的広島市と福岡市との差が小さい。広島市が健闘している項目である。岩国市の現在のイメージが意外に福岡市寄りである。図13の楽しさは、時期的な違いが大きく、とりわけ現状について広島市のイメージがとくに低い。山口が美しさ・楽しさとともに広島市に対して比較的強いイメージをもっている。治安の良さは図14のように、時期的な違いは少ない点以外に大きな特徴はみられない。

(8) 若者の活気・ファッション性・文化・芸術性

若者の活気は、図15のように、概して福岡市のイメージがとくに強い。数年前、現在、将来のどれについても、県内都市間の違いが少ない。すなわち、西部に位置するか東部に位置するかに関わりなく、比較的地理的な位置の影響が少ない。ただし、数年前や将来に比べて、現在の広島市のイメージが低く、現在はかつてよりもイメージが低下しているが、将来は少し回復するとみている。この点は上記の図13（都市的な楽しさ）や次の図16（ファッショ



ン性) についても当てはまる。

図16のファッション性は、概して福岡市の評価が高い項目である。徳山が現在・将来ともに完全に福岡市寄りであるのが印象的である。

図17の文化・芸術性は、完全に福岡市寄りの長門と、相対的に広島市寄りの柳井・岩国との違いが大きい。全般的に現在と将来との違いは小さいが、広島市に近い岩国・柳井で数年前や現在に比べて将来の広島市のイメージがかなり低下していることが分かる。

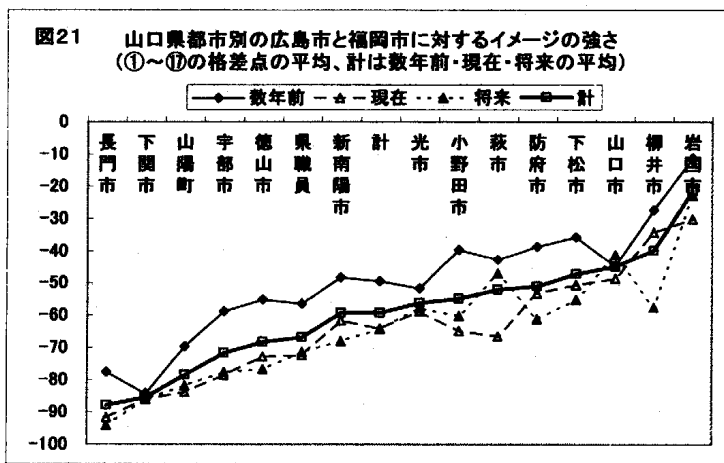
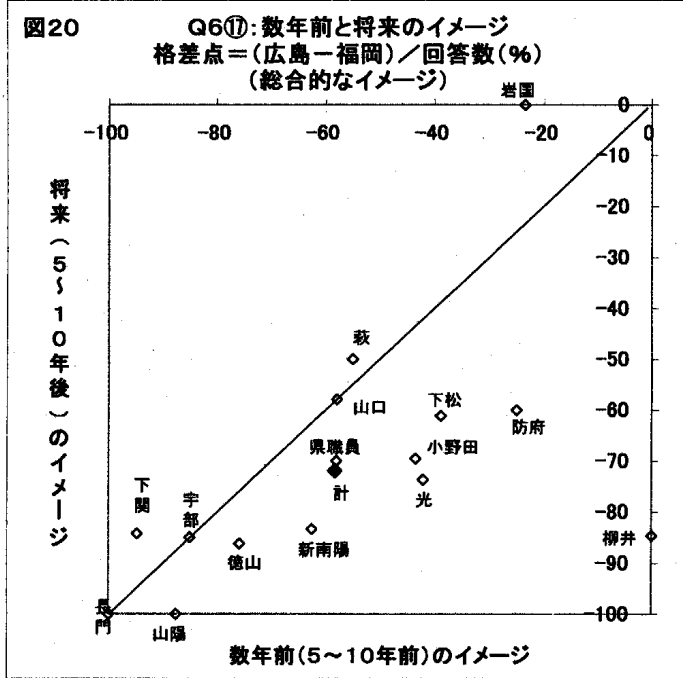
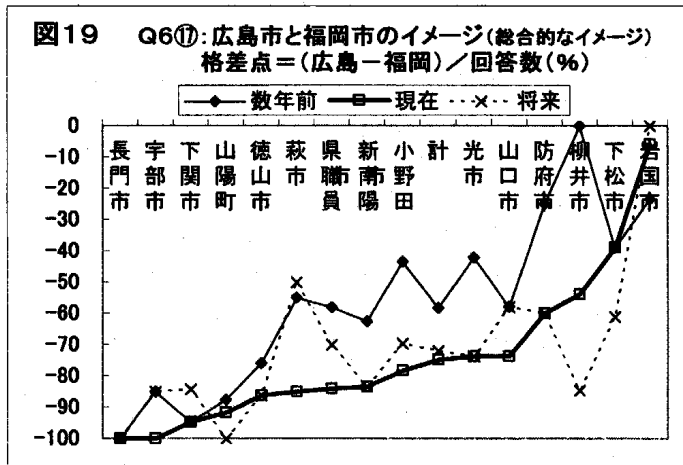
(9) 親近感

図18のように、親近感は、ほぼ距離的な遠近がそのまま反映されている。広島市に近い岩国、柳井、光、下松、徳山、新南陽、徳山、防府、山口まではほぼ広島市が強く、逆に福岡市に近い下関、山陽、長門、萩、小野田、宇部はマイナスで福岡市寄りである。きれいに周防部と長門部に分かれている。時期的には、数年前と現在の違いはほとんどなく、将来については、周防部で広島市離れが生じて、福岡市寄りに近づく傾向が見られる。

(10) 総合的なイメージ

総合的なイメージは図19に示す。全般的に福岡市のイメージが広島市より強く、その中では、周防部は比較的広島市、長門部は福岡市寄りである。例外的なのは徳山と新南陽であり、福岡市寄りの程度が強い。時期的には、数年前から、現在となるにつれて、殆どの都市において広島市から福岡市へとイメージの移動がみられ、逆の動きは見られない。将来については、現在より福岡市寄りになるのは山陽、柳井、下松であり、他は広島寄りに戻る傾向がある。しかし、いずれにしても福岡市のイメージが強い、とりわけ長門部において福岡市のイメージが強いのは変わらない。

図20は、現在を飛び越して、数年前と将来のイメージを比較したものである。14都市のうち岩国、萩、下関の3都市で広島市寄りになり、山口と宇部は不変であるが、その他の9都市は福岡市寄りとなる。とくに、岩国が将来



は完全に広島市寄りとなるのに対して、数年前に完全に広島市寄りであった柳井が大幅に福岡市寄りとなっているのが注目される。ただし、とくに柳井についてはサンプル数が十分とはいえないので、結論づけることはできないが。

(11) 広島市及び福岡市に対するイメージと県内都市

以上のような広島市と福岡市についての18項目にわたるイメージの違いと県内都市との関係をまとめたものが図21である。

いずれの都市も福岡市のイメージが強力であるのは共通である。そのなかで、相対的にみると、広島市に近い周防部は広島市寄りに、福岡市に近い長門は福岡市寄りであるが、例外は、徳山と新南陽が福岡市寄りであり、

萩と小野田が相対的に広島市寄りである点である。県職員は概ね企業平均（計）に近いところに位置する。県職員は多くは県都である山口市かその近辺に住んでいると思われるが、その広島市と福岡市に対するイメージは、山口・防府の企業とは一線を画していて、独自のイメージをもっていることが分かる。そのイメージは、広島市及び福岡市との距離的遠近から一步離れた見方、すなわち距離的遠近にとらわれない見方であると考えられる。

（以下次号）